



北海道大学

# 地区協会助成事業成果共有会

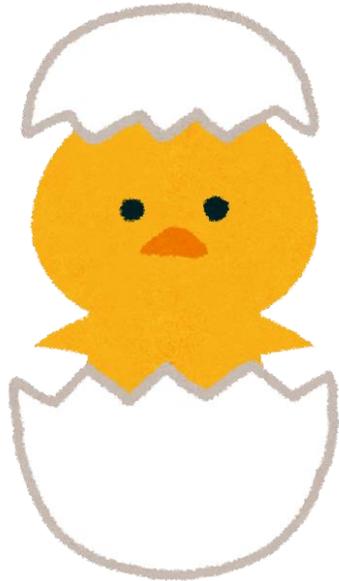
—北海道地区の場合—

2022年12月2日

北海道大学附属図書館（芝）

## はじめに

- 発表者は2021年度から参加。運営経験1回の初心者
- 過去のメンバーから聞いた内容も含めて紹介



## はじめに

- 発表の概要
  1. メンバー
  2. 実施事業
  3. 特色、近年の傾向
  4. 運営方法
  5. 地区助成事業の意義、課題

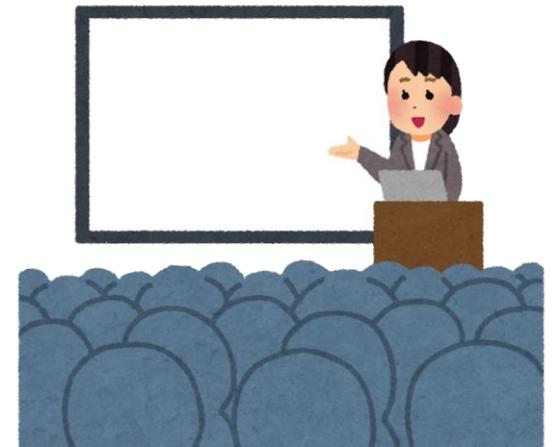
## メンバー

- 複数の大学の図書館職員から構成されるWG（ワーキンググループ）で活動
  - メンバーは国立大学図書館協会の会員館からそれぞれ1-2名ずつメンバーを選出する
  - 北海道地区会員館＝北海道大学、北海道教育大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、帯広畜産大学、旭川医科大学、北見工業大学
- 若手～中堅が選出されることが多い印象
- リーダーとは別にアドバイザーが1名つく
- 事務局は北大が担当



## 実施事業

- 例年、大学図書館職員向けの研修・セミナーを開催
  - 2021年度：「魅せるオンライン教材！ デジタル時代のリテラシー教育」
  - 2020年度：「コロナ禍を生き抜く！ 大学図書館のリモートサービス基礎知識」
  - 2019年度：「明日から実践できる！ 図書館職員のための英語講座」
- 講演形式もあればワークショップ形式のこともある
- テーマは様々だが図書館員に役立つ内容にしている
  - 過去テーマは英語、リテラシー、コミュニケーション、写真など色々
- 参加者は対面で20名程度、オンラインで70-80名程度



## 実施事業（例：2021年度実施事業）

- 事業例：魅せるオンライン教材！ デジタル時代のリテラシー教育（2021年度）
  - 日時：2022年2月10日 13:00-17:00
  - 方法：オンライン（Webex Meeting）
  - 講師：重田勝介氏（教育工学専門の北大教員）
  - 内容：オンライン教材の作成方法・活用方法の知識、図書館が取り組むリテラシー教育などについて
  - 第1部は講演、第2部はワークショップ



国立大学図書館協会 北海道地区協会 令和3年度企画事業

### 魅せるオンライン教材！ デジタル時代のリテラシー教育

図書館利用者向けのガイド・リテラシー教材をオンラインで提供する機会が多くなってきました。そこで「オンライン教材の作成方法・活用方法」「リテラシー教育の手法」を学ぶためのオンライン講座を開催します！

**日時** 令和4年 **2月10日(木)** 講師：重田 勝介 氏

- ◆ 第1部【知識編】 13:00 - 14:00
- ◆ 第2部【実践編】 14:15 - 17:00

**対象** 北海道地区の大学図書館に勤務されている方  
※定員に余裕がある場合、北海道地区以外の方も参加可能です。

**申込方法** 下記Webフォームよりお申込みください  
(申込期限：令和4年1月21日(金)まで)  
※第1部のみ参加も可能です  
※第2部は実習形式のため定員30名(先着順)となります

【参加申し込みWebフォーム】  
<https://forms.gle/71SXdkNY48qKNZnf8>

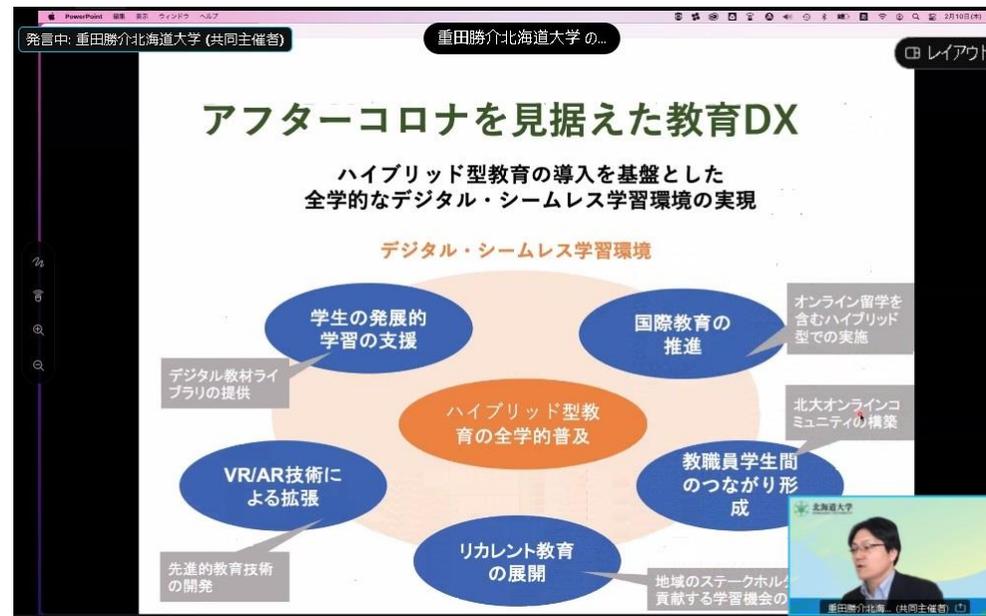
**問合せ先** 北海道大学附属図書館 管理課庶務担当  
shomu@lib.hokudai.ac.jp

主催：国立大学図書館協会北海道地区協会 後援：北海道地区大学図書館協議会

# 実施事業（例：2021年度実施事業）

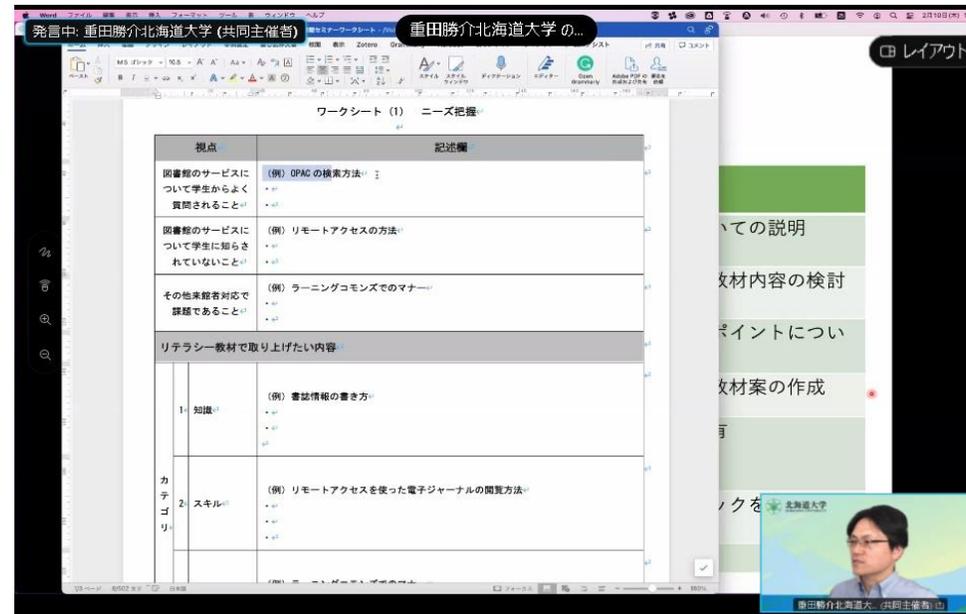
## ● 第1部【知識編】：講演

- 教育・研修の効果を高めるための手法の解説
- オンライン教材を作成する際に使えるツールの紹介など



## 実施事業（例：2021年度実施事業）

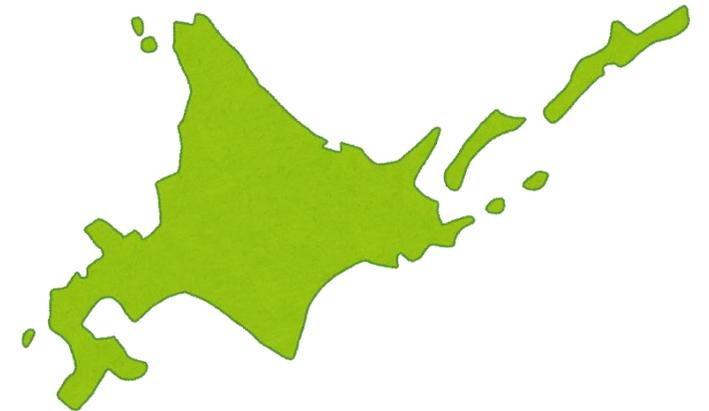
- 第2部【実践編】：ワークショップ
  - リテラシー教材案の作成し、数名ずつに分けたグループ内で発表
  - 講師によるフィードバックを受けて改善案の作成、全体へ発表



## 特色

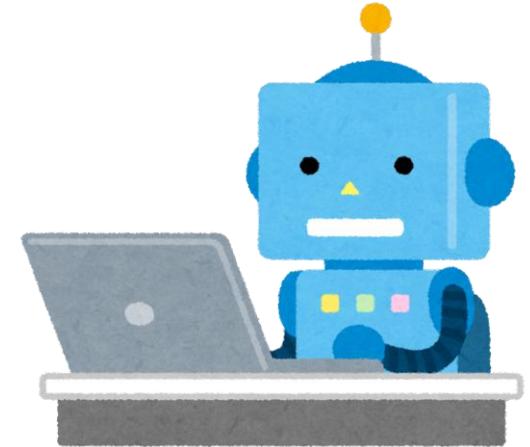
- 総合大学から単科大学まで規模・場所が大きく異なる
- （対面形式の時は）道外からの参加のハードルが高い
- 北海道地区大学図書館協議会（※）にも広報の協力をしてもらうため公立大学や私立大学からの参加者も多い

※北海道地区大学図書館協議会＝北海道地区の国・公・私立大学図書館38館が所属



## 近年の傾向

- 新型コロナの影響で、2020年度からはオンライン形式で実施
- オンライン化に伴い、道外からの参加者の発生 & 増加
  - 道外参加者の割合：0%(2019)→23%(2020)→46%(2021)
- ツールの活用が進んだ（Slack、Webex、Google Workspace等）



## 運営方法

- 運営方法の概要（★の内容は別スライドで補足）
  - テーマの決定や作業分担 . . . ★
  - 講師の選定 & 依頼 . . . ★
  - 地区助成事業費の申請
  - 実施準備（広報・参加者対応等）
  - 当日の対応（参加受付・司会進行等）
  - アーカイブの用意 . . . ★
  - 実施後の報告

# 運営方法

- テーマの決定や作業分担
  - テーマの決定は一番苦労しがち
  - 打ち合わせの中で決める、各メンバーが案を出して投票で決めるなど年度によって決定方法は変わる
  - 作業分担は各自でやりたい所を担当し、負担が偏らないようにリーダー役が調整する



## 運営方法

### ● 講師の選定 & 依頼

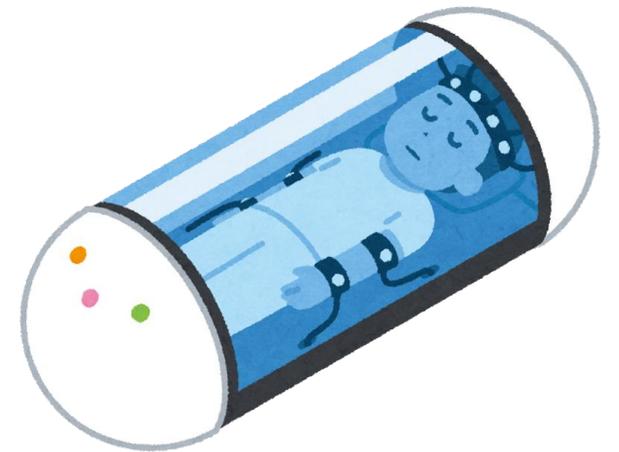
- 基本的にはメンバーの人脈に頼ることが多い
- 知り合いの知り合いぐらいのつながりの人に頼むこともある
- 外部の民間企業に講演依頼をすることもあるが、図書館員向けの研修実績がないことも多く、選択肢が限られることも・・・



## 運営方法

### ● アーカイブの用意

- 地区協会助成事業成果のページに実施概要やポスターを残す  
＞2021年度→[https://www.janul.jp/ja/regional/hokkaido/promotion\\_hokkaido](https://www.janul.jp/ja/regional/hokkaido/promotion_hokkaido)
- 事務局の機関リポジトリに講演資料を残す（依頼する段階で事前にアーカイブの了承を得ておく）  
＞2021年度→<http://hdl.handle.net/2115/84257>



## 地区助成事業の意義

- 図書館員による企画のため、**実務に即した内容**で実施できる
- 他大学の職員との**協力・交流の機会**になる（運営側も参加者も）
- イベント運営の**知識・経験**が身につく
- 助成事業費の申請・予算管理・実施報告など、**助成金事業の一連のプロセスを経験**できる



## 課題

- WGメンバーが1-2年で交代するため、**長期的な企画が難しい**
  - 例年と同じような形式・手順で済ませがち
- 組織が違くと「**課題**」と意識する内容が異なることがある
  - 「研究データ管理の最新状況」か「利用者対応の改善方法」か、など
- 通常業務と並行する形になるので**業務量増加**

おしまい

ご清聴ありがとうございました